



## 化学に助けられて

●  
上田由紀子 Yukiko UEDA

国立スポーツ科学センタースポーツクリニック/ニュー上田クリニック 院長



皮膚科医としての人生を歩んで、40年になる。巻頭言などおこがましいと思ったが、私たちの生活は常に化学に助けられていることを感謝する良い機会をいただいた。化学に出会ったのは、多くの人と一緒に、高校生のときである。運の良いことに、所属していたバスケットボール部の顧問もされていた、尊敬できる化学の先生は、効率良く高校生に必要な化学の知識を教えて下さったので、予備校の補習は全く必要なく、模試でも化学は、楽にほぼ満点であった。当時の医学部受験にはどこの大学でも化学は必修科目であり、配点も多かったため、大学に合格できたのも化学のおかげだと思っている。化学の先生は「効率良く勉強して、余裕の時間でバスケットを楽しむ」ことも教えて下さり、1964年の東京オリンピックでバスケットボールの審判をなさったので、私もスコアラーをする、という貴重な経験をさせていただいたことは、特筆すべきと思う。

東京大学医学部で、化学の知識が必要だったのは言うまでもない。大学での化学の知識はとてつもなく広く深く、その道を専門にしないで良かったと思った。薬学、生理学、生化学、そして臨床医学、すべてにおいて化学とは深い関連があり、その分野の研究結果に助けられて医療は成り立っている、と思えた。中でも薬の力は素晴らしく、たくさんの薬がなければ医師はほとんど患者さんを助けることはできない、と常に感じる。あんな小さな1粒でこんなに人は元気になれるのだ、ということに驚く。皮膚科医として常にお世話になる外用薬の効果についても、基剤の違いでこんなに効果が違うと感じることが多く、自分が信頼できる薬剤しか処方することができない。近年の医学では、薬剤以外にも化学の力に助けられた最新の治療法が研究開発されているので、将来、医師の仕事内容もずいぶん変わっていくことと思う。

皮膚科医として、また女性の立場として、生涯お世話になる化粧品も化学の研究のたまものである。現在皮膚科学の1分野となっている美容皮膚科は優れた機能性化粧品がなければ成り立たないし、医師は化粧品化学について勉強する必要もある。個人的にも年齢を重ねるにつれて、爽やかで健康的な生活を維持したく、スキンケア、栄養、運動、疾病予防など、ここでも化学に助けられて生活している。自分の1日の生活を考えても、食事、掃除、洗濯、ペットの世話、ガーデニングなど何かにつけ、化学のお世話になっている。「そう、だから化学はしっかり勉強した方がいいわよ」と子供たち、孫たちに偉そうに言いながら、年に1回、センター試験の問題を家族で解いて点数を競い合うことができることが、一番楽しい化学の力かもしれない。

© 2018 The Chemical Society of Japan